

核兵器禁止条約発効・日本被団協結成 65 年に
すべての人に贈るブックレット

被爆者から あなたに

いま伝えたいこと



日本原水爆被害者団体協議会 編
岩波ブックレット 682円

自分たちのような苦しみは、子や孫はもちろん、世界の誰にも味わわせてはならない。“ふたたび被爆者をつくるな”は被爆者の何よりの願いです。

1945年8月、アメリカが広島・長崎に投下した原子爆弾の被害者は、「世界に訴うべきは訴え、国家に求むべきは求め、自ら立ち上がり、互いに相救う道を講ずる」ため、1956年8月、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）を結成しました。

以来65年、原爆が人間にもたらした被害を究明しながら、その反人間性を訴え、核兵器の廃絶と原爆被害への国家補償の実現を求めてきました。

このブックレットは、核兵器禁止条約の発効にいたる被爆者運動のあゆみをたどりながら、被爆者の願いを実現する道とそれを阻むものを明らかにしています。

被爆者が、核兵器廃絶と切り離せない要求として、原爆被害への国家補償を求めつづけるのはなぜなのか。「被爆国」日本の政府がなぜ、この条約に署名も批准もしようとしないのか。いま、私たちが抱える課題は何なのか――。

このブックレットを手がかりに、核兵器も戦争もない世界を願うみなさんに、被爆者といっしょに考えてみていただければ、うれしく思います。

※ ブックレットの注文・購入は、お近くの書店で。入手しにくい場合は、日本被団協にお申し込みください（送料実費）。

日本被団協 御中（FAX 03-3431-2113）

ブックレット「被爆者からあなたに」注文書

ご氏名（団体名）		注文数	冊
送付先住所	〒		
電話または E-mail			

被爆者から あなたに

いま伝えたいこと

日本原水爆被害者
団体協議会 編

表紙は日本被団協のシンボルマーク。折り鶴は永遠の平和、楕円は心をつなげた「和」の象徴。デザイン：片岡脩。

はじめに	2
Ⅰ 原爆は人間に何をもたらしたか	4
1 人類史上初めての核兵器被害	
2 人間として死ぬことも、生きること許さない——原爆の反人間性	
3 原爆は人間と共存できない——絶対悪の兵器	
Ⅱ ふたたび被爆者をつくらないために	21
——被団協運動のあゆみ	
1 被害者自らの立ち上がり——日本被団協の結成	
2 原爆被害者援護法の要求と原爆二法の成立	
3 一九七七年NGO国際シンポジウム——被爆者運動飛躍の契機	
4 「基本懇」の「受忍」論と「原爆被害者の基本要請」	
5 核兵器は廃絶するしかない——被団協独自の国際活動	
6 日本被団協と国連	
7 「受忍」できない原爆被害——「国家補償」を求めて	
8 ヒバクシャ国際署名——核兵器禁止条約への道	
Ⅲ 核兵器も戦争もない世をめざして	67
——核時代をのりこえる人間の生き方	
1 「被爆国」政府が核兵器禁止条約に署名しないのはなぜ？	
2 「被爆国」日本の政府の責任とわたしたち	
おわりに	81
参考文献	
《略年表》日本被団協のあゆみ	